

第 62 回

論文式経営学はデザートなのか？

会計士受験生のみなさん、こんにちは。受験勉強お疲れ様です。

本日は、論文式経営学はデザートなのか？について書かせていただきます。

巷では、経営学は最後のデザート科目だと言って憚らない某講師や、それに対して騙されたと憤慨する意見の双方を見かけます。

上記に対する私の見解はシンプルで、「ある 2 条件を満たす人にとっては、デザート科目と言える。」となります。

さて、その 2 条件とは何なのかというと、①日常的に経済ニュースを読む癖がついていること、②数式への忌避感の無いこと、の 2 つです。

例えば、令和 6 年本試験では「DX」の正式名称が出題され、当時の Twitter（現：X）は荒れ、予備校等

の講評でも「どうしようもない知識問題」として扱われていましたが、この単語は（私の記憶の限り）2015年～2020年ぐらいの期間には経済ニュースに頻出の単語だったため、ニュースを追っていれば一度ぐらいは正式名称も聞いたことがあるようなものでした。

机にかじりついて黙々とテキストや答練をこなす以外のことをしていると勉強している感が無い人も多いでしょうが、今日から毎日 Twitter（現：X）を見ている時間を 10 分 SmartNews に振り替えるだけで、この「DX」のような問題にも対応できるようになります。これが①の条件を挙げさせていただいた理由です。

②についてですが、特にファイナンス分野については、数式の変形操作がある程度できるかどうかで体感の重さが著しく変化します。極端な例ですが、先物の理論価格も、プットコールパリティも、サステナブル成長率も、コンビネーション取引の作り方も暗記不要になります。また、令和 6 年本試験ではファイナンス

以外の分野でも女性管理職比率を現場対応させる趣旨の問題が出題される等、数式や数理モデルを取り扱う能力自体を問われる方針に転換してゆく可能性があります。

残念ながら、こればかりは一朝一夕でどうにかなるものではありません。能力を伸ばすためにも、数式への忌避感が払拭できていないと、遠い道のりになってしまいます。これが②の条件を挙げさせていただいた理由です。

余談ながら、最近、公認会計士協会が理系出身会計士を増やそうと動いているようです。理系学部出身者はほぼ②の条件を（高水準で）満たす人たちであるため、協会の動き次第では受験者全体の平均水準が大きく動きかねないため、審査会発表のバランス調整と共に注視が必要かもしれません。

以上、お付き合いありがとうございました。